

週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月11日(木)

《神の国は、神様とともにいること - 神様と同じことを喜び、同じことを悲しむ - 》

今日の福音(ルカ 17・20 25)は、神様の国について話されています。しかし私たちは、生きている間は、神様の御国がどのような形のどのような世界なのか、具体的には分からないでしょう。

天国の反対は地獄です。^{よみ}陰府とも言います。その地獄について、以前私が神学的に説明したことを覚えていますか。きっと、もう一度聞けば、思い出していただけたと思います。神学的に言えば、**地獄というのは、神様から離れることです。**死んでから、三位一体の神様から完全に離れてしまうことです。逆に、**天国は神様と一緒に住むことです。**具体的には描くことができないかもしれませんが、天国に入れば私たちは永久に^{とこしえ}神様の一部になって、一緒に生きられるのです。そのような考え方が、信仰的にふさわしい結論です。

今日イエス様は、「神の国はあなたがたの間にあるのだ。」とおっしゃいましたね。これは、どういう意味でしょうか。2000年前にイエス様がこの世に来られた時、何よりも人々に見せようとしたのは御国でした。神様の国、神様の心、それを人々に見せようとしてしました。そして、神様の国を知るために、悔い改めを勧めました。

では、“人々の間にすでに神の国がある”というのはどういうことでしょうか。それは、“神の国は関わりを通して体験しなければならない”ということです。**関わりには、天国も地獄もあります。**即ち、関わりが上手くできて、愛や感謝、喜びの体験ができれば、天国の味を少しでも味わうことになるでしょう。逆に、その関わりが駄目になって、生きる気力さえ失うような関係になれば、それが地獄になるし、そのような関わりの中には、神様はいないと思います。

“イエス様、神様と一緒にいる”ということは、**神様が望むことを望み、神様が嫌うことを嫌うことです。神様が喜ばれることを喜び、神様が悲しむことを悲しむことです。**これがイエス様、神様と一緒にいる、ということです。もしこれができなくて、また、“できるようにになりたい”という希望もなければ、私たちの毎日は地獄の体験になるのでしょう。

この世の中は、ある意味では煉獄かもしれません。天国と地獄を一緒に味わうことのできる世界です。そして、**決定権は私たち一人一人が持っています。**地獄と天国のどちらを選ぶかは、私たちにかかっています。「天国に行くか、地獄に行くか」ということは、「神様と一緒に生きたいと思うか、そう思わないか」ということになるでしょう。「天国は、すでにあなたがたの間にある」という言葉を意識しましょう。そして、私たちに課された約束がいつか私たちの努力によって成し遂げられるように願うのが、信仰の道でしょう。

結局天国は神様から離れないで一緒にいることです。それを望みながら、私たちの小さい心の中で体験できる素晴らしいものを保とうとする気持ち、心を持ちながら生きましょう。

ありがとうございました。

- ミサの後 -

この世で天国を体験できる人は、本当の天国にも入れると思います。何よりも心の天国を築こうとすることが大切です。この世が地獄だと思っいては、天国に入れません。今日の福音は、意味のある言葉だと思います。